

江戸から
見える未来

見直される漢方と「未病の学」の水脈

農医一体・未病医学・全人医療の先駆

日本漢方の起源・革新・展開を知る全集

漢方の真髄は未病にあり

高齢化社会の進展により、心身ともに全体像を把握し、さまざまなバランスの崩れを見極めて治療にあたる。当然である。高齢者の多くは多臓器、多系統に疾患を抱えており、細分化した西洋医学では対応が困難だからである。漢方の特徴は、心と身体は一体であることを前提とし、自然治癒力を高め、身体を整えることを基本にしている。一人ひとりの患者について、という概念がある。「上工は未病を治す」と漢方でもつと尊重される「未病」は、体質改善や病気の予防を重視する漢方の最大・最高の目標である。食生活を中心とした自然との健全な関係によって生命力（元氣）を強化し、心と身体を健康



また、漢方には「未病」という概念がある。「上工は未病を治す」と漢方でもつと尊重される「未病」は、体質改善や病気の予防を重視する漢方の最大・最高の目標である。食生活を中心とした自然との健全な関係によって生命力（元氣）を強化し、心と身体を健康

医のポストモダン思想

親試実験を唱え、実験医学の道を開いたとされる吉益東洞と、ほぼ同時代に生きた安藤昌益は、これまで「日本の国士が生んだ最大の特筆すべき人物」（狩野亨吉）として、その卓抜な社会思想ばかりが注目されてきた。しかし、彼の生業は医者であり、狩野亨吉による発見以前に昌益の業績を紹介したのは、ほかならぬ漢方医学の巨頭、浅田宗伯であった。

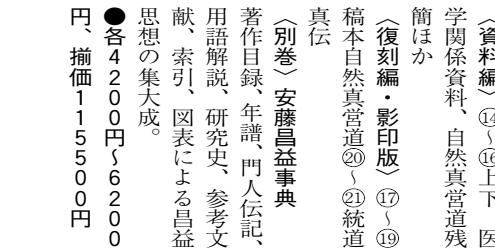
叢書 日本漢方の古典

全3巻 栗島行春編訳、復刻・書下し・現代語訳・注解、B5判、上製、箱入
第1巻 医心方 食養篇 490頁 16800円
第2巻 建殊録 東洞医学 490頁 16800円



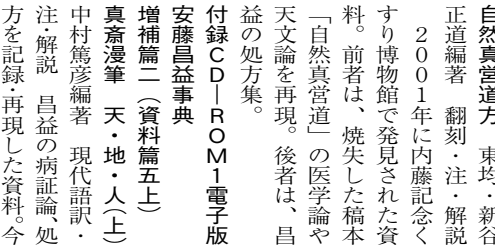
安藤昌益全集

全21巻（22分冊）別巻1
安藤昌益研究会編、A5判、上製、箱入
《現代語訳編》①～⑦稿本
《現代語訳編》⑧～⑫稿本
《現代語訳編》⑬稿本
《資料編》⑭～⑯上下
《資料編》⑰～⑱上下
《復刻編・影印版》⑲～⑳
稿本自然真営道⑳①②統道
真伝
《別巻》安藤昌益事典
著作目録、年譜、門人伝記、用語解説、研究史、参考文献、索引、図表による昌益思想の集大成。



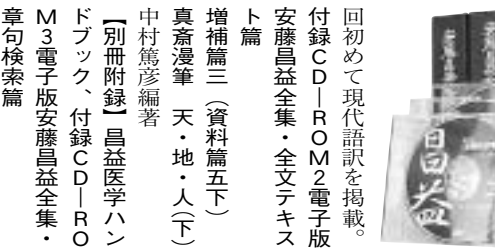
安藤昌益全集

全3巻、A5判、上製、箱入、各巻CD-ROM付
●各15000円、揃価45000円
増補篇一（資料篇四）
良中子神医天真、良中先生自然真営道方 東均・新谷正道編著 翻刻・注・解説
2001年に内藤記念くすり博物館で発見された資料。前者は、焼失した稿本「自然真営道」の医学論や天文論を再現。後者は、昌益の処方集。



増補篇

増補篇二（資料篇五上）
真斎漫筆 天・地・人（上）
中村篤彦編著 現代語訳・注・解説 昌益の病証論、処方集を記録・再現した資料。今

「未病」の精神で現代と格闘した三人
人間をまるごととらえて社会
の病理まで浮き彫りに

●衛生とは生命・生活・生産を衛る

ことである

「丸山博著作集」

丸山衛生学は、医学の基となる世界観、実践のたのめとなることとを目標とした。医学の一分野として、衛生学ではない。森永砒素ミル中毒事件の追跡調査を初めとした実践的研究を、保健婦や養護教諭に大きな影響を与えた。有害食品研究会やアーユルヴェーダ研究会も組織し、自然食や有機農業を実践・支援する組織が生まれる先駆ともなった。

●21世紀をこそ子ども世に

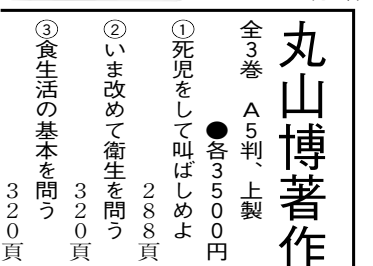
『正木健雄選集 希望の体育学』

各地の紛争で命を落とす少年兵、インド洋大津波で心配される子ども的人身売買。日本でも凶悪犯罪の犠牲者として、さらには加害者として子どもが追い詰められている。正木は、軍国主義教育の先兵だった体育を子どもたちのための体育に転換するための研究に、発言し、運動を組織してきた。四〇余年にわたる業績から編まれたのが本書である。

●「病人の歴史」を描いた戦後社会史研究
の金字塔 川上武『戦後日本病人史』

●「病人の歴史」を描いた戦後社会史研究

川上武は、『現代日本病歴・福祉関係者からは「医療人史」（勁草書房、1998年）で初めて、医学史でも疾病史でもなく、「病人」の視点から近代日本の歴史（明治から敗戦まで）を総括した。治療現場に立つ医師であり、社会視点を持つ医事評論家でもある川上だからこそできた仕事だった。その続編である『戦後日本病人史』も、すでに医



丸山博著作集

全3巻 A5判、上製
●各35000円
①死児をして叫ばしめよ 288頁
②いま改めて衛生を問う 320頁
③食生活の基本を問う 320頁



激動の二十世紀後半が全七章にわたってまとめられており、かつ、膨大な注で参考文献が示されている。また、患者の手記や文学作品も随所に参照されており、研究書のような生硬さではなくそれぞれの時代に生きた者の命の叫びが伝わってくる。